

## アカデミック・ライティング指導モデルの整理

学年の発達の段階に応じて、指導事項ごとの内実を示し、手順の中で使用可能と思われる思考ツールや、情報収集の方法についても示している。

		低	中	高
①	題材の設定	<b>① 日頃から課題を集めておく</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">課題ストック</span> <b>① 調べるものを決める</b> …イメージマップ（関連付け）		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 興味があるもの。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経験したこと，想像したこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的や意図に応じて，感じたことや考えたこと。</li> </ul>
②	仮説の設定	<b>② 仮説を立てる</b>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活や実体験を基にして結果を予想する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複数の実例から，それらの共通点を導き出して仮説を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルールや法則に物事を当てはめて仮説を立てる。</li> </ul>
③	情報の収集	<b>③ くわしく調べる</b> …ベン図（比較），XYチャート（分類） ボーン図・ピラミッドチャート・なぜなにシート（構造化）		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手や目的に応じて，必要な事柄を調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集めた材料を分類したり関連付けたりして，伝えたいことを明確にする。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本（2年～）</li> <li>・ メモ（2年～）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科学読み物（3年～）</li> <li>・ 百科事典（4年～）</li> <li>・ 引用（3年～）</li> <li>・ 要約（4年～）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 統計資料（5年～）</li> <li>・ 目的に応じて引用（5年～）</li> <li>・ 情報と情報をつなげる（6年～）</li> </ul>
④	構成の検討	<b>④ 文章の組み立てを確かめる</b> …ステップチャート（順序立て）		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 段落相互の関係などに注意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章全体の構成や展開を考える。</li> </ul>
		1, 調べたきっかけや理由 2, 調べ方 3, 調べて分かったこと（考えたこと） 4, まとめ（考えたこと，思ったこと）		
⑤	考えの形成 記述	<b>⑤ 文書を書く</b> …クラゲチャート・バタフライチャート（理由付け） ボーン図・なぜなにシート（構造化）		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書こうとすることの中心を明確にし，目的や必要に応じて理由や事例を挙げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたり，事実と感想，意見とを区別して書いたりして，自分の考えが伝わるようにする。</li> <li>・ 引用したり，図表やグラフなどを用いたりする。</li> </ul>
⑥	推敲	<b>⑥ 読み返す</b>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 敬体と常体の違い。</li> <li>・ 間違いを正したり，よりよい表現に書き直したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手や目的を意識した表現になっているかを確かめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章全体の構成や書き表し方などに着目。</li> </ul>
⑦	共有	<b>⑦ 感想を伝え合う</b>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書いたものを発表し合い，書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見つけること。</li> <li>・ 書こうとしたことが明確になっているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章全体の構成や展開が明確になっているか。</li> </ul>

# 「鯨っ子学習」のすゝめ

(15時間程度)

## —児童用—

次の課題の設定

### 課題の設定(2時間程度)

- ・「課題ストック」から自分が調べたい課題を決めよう。
- ・課題をもとに「問い」の文を書いてみよう。
- ・調べる前に、結果がどうなるか書いてみよう。
- ・これからどんな方法で調べていくのか、最後はどんな方法でまとめるか見通しをもとう。

### まとめ・表現(5時間程度)

- ・「だれに向けて」「なんのために」まとめ・表現するのははっきりさせよう。
- ・自分の課題の設定で考えていた結果と調べて分かった結果を比べて考えたことを書こう。
- ・新しい課題を見つかったら、自主学習等でさらに調べてみよう。

#### □まとめ・表現の例

- ・意見文 ・提案文 ・レポート ・新聞 ・パンフレット
- ・ポスター 等

### 日々の授業

- ・「課題ストック」をためていこう。
- ☆「課題ストック」とは…  
授業で「もっと知りたい」「もっと調べたい」と思ったことを、ノートやワークシート、タブレットなどにためたもの。

### 情報の収集(4時間程度)

自分の課題の解決に必要な情報を集めよう。

#### □情報の収集の例

- ・アンケート ・インタビュー ・手紙 ・電子メール
- ・電話 ・本 ・インターネット ・観察 ・実験 等

### 整理・分析(4時間程度)

- ・集めた情報を整理して、どんなことが分かったか書いてみよう。
- ・朝の「思考スキル」で使った思考ツールや国語や算数、理科、社会などの学習で習った方法で整理するといいですね。
- ・「問いの答え」を筋道立てて書きましよう。

#### □整理・分析の例

- ・地図 ・グラフ化 ・統計的手法 ・KJ法
- ・コンセプトマップ・ランキング表 ・ロジックツリー
- ・座標軸 ・クラゲチャート・ベン図 ・KWLシート
- ・ピラミッドチャート(具体化、抽象化) 等

分からない方法は先生に教えてもらおう。

# 「鯨っ子学習」のすゝめ

(15時間程度)

## —教師用—

次の課題の設定

### 課題の設定(2時間程度)

- ・児童は、「課題ストック」を基に本当に探究したい課題を設定する。
- ・課題をもとに「問い」をもつ。
- ・児童は、課題に対する仮説(予想)を立てる。
- ・児童は、まとめ・表現までの見通しをもって探究を始める。
- ・教師は、まとめ・表現で行うパフォーマンスの姿を示し、児童ゴールを意識して学習を進めることができるようにする。

### まとめ・表現(5時間程度)

- ・児童は、相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり、表現したりすることで、情報を再構成し、自分の課題に対して考察する。
- ・児童は、課題の設定での仮説と学習を経て得られた結論について文章で考察する。
- ・児童は、新たな課題を見つけ、自主学習等でさらに探究していく。
- ・教師は、まとめ・表現の方法を選択して行えるようにする。
- ・教師は、各教科等で身に付けた表現方法を活用できるようにする。
- ・教師は、児童のまとめ・表現の姿や成果物を記録として残しておく。

#### □まとめ・表現の例

- ・意見文 ・提案文 ・レポート ・新聞 ・パンフレット ・ポスター 等

### 日々の授業

- ・児童は、「課題ストック」を貯める。
- ☆「課題ストック」とは…  
→「もっと知りたい」「もっと調べたい」という一人一人の興味・関心に基づく課題。既習の学びや日頃の授業(単元)の振り返りにて、ノートやワークシート、タブレット型端末等に貯めておく。

### 情報の収集(4時間程度)

- ・児童は、各教科で身に付けた資質・能力を発揮して情報を収集する。
- ・児童は、観察、実験、見学、調査、探索、追体験等の学習活動を基に、課題の解決に必要な情報を収集する。
- ・教師は、情報の収集の方法に応じて必要なサポートをする。

#### □情報の収集の例

- ・アンケート ・インタビュー ・手紙 ・電子メール ・電話 ・本
- ・インターネット ・観察 ・実験 等

### 整理・分析(4時間程度)

- ・児童は、収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして情報を整理し、分析する。
- ・児童は、朝の「思考スキル」で用いた思考ツールや各教科等で身に付けた力を発揮する。
- ・課題の設定においてもっていた「問いに対する答え」をまとめる。
- ・教師は、論理的に結論を導けるようにする。

#### □整理・分析の例

- ・地図 ・グラフ化 ・統計的手法 ・KJ法 ・コンセプトマップ
- ・ランキング表 ・ロジックツリー ・座標軸 ・クラゲチャート
- ・ベン図 ・KWLシート ・ピラミッドチャート(具体化、抽象化) 等

## 2022 総合的な学習の時間(年間計画)

	3年生	4年生	5年生	6年生	
学年テ	福祉	地域	環境	平和	
4	タブレットの使い方 (タイピング) 調べ学習① (全体統一テーマ)	<b>A</b> 横断的・総合的な探究課題 学年テーマ 「地域」 探究課題 「地域の特色と広げつな げたいヒトやモノ」 学習事項 「佐賀藩の歴史を伝えよう」 「佐賀城本丸歴史館などの文化 財を知らせよう」 「佐賀を築いた七賢人を伝えよ う」など	<b>B</b> 学級担任の教科の特色 を生かした探究課題 (例)外国語科 テーマ 「国際理解」 探究課題 「地域に暮らす外国人 とその人たちが大切にし ている文化や価値観」 学習事項 「日本の伝統や文化とそのよさ」 「世界の国々の伝統や文化とそのよさ」 「異なる文化と交流する活動や 取組」など ※情報活用能力の指導と並行	<b>C</b> 【鯨っ子学習】 児童の興味・関心に 基づく探究課題	
5	調べ学習①				(運動会)
6	調べ学習① ②(グループテーマ)			※情報活用能力の指導と並行	※学習成果を5年生へ伝える
7	調べ学習②				
8	夏休み	夏休み	夏休み	夏休み	
9	調べ学習② プログラミング学習	<b>C【鯨っ子学習】</b> 児童の興味・関心に 基づく探究課題	※学習成果を4年生へ伝える 北山自然体験学習「森林学 習館」で自然について学ば 中で課題意識をもつ	<b>A</b> 横断的・総合的な探究課題 学年テーマ 「平和」 探究課題 「世界で起きている紛争問題 と平和を目指す取組」 学習事項 「世界ではどのような争いが起こ っているのか」 「平和のための取組と自分たちに できること」	
10	プログラミング学習 特別支援学校との 交流学習				
11	特別支援学校との 交流学習	※学習成果を3年生へ伝える	<b>A</b> 横断的・総合的な探究課題 学年テーマ 「環境」 探究課題 「身近な自然環境とそこに 起きている環境問題」 学習事項 「身近な自然の存在とそのよ さ」 「環境問題と自分たちの生活の 関わり」 「環境の保全やよりよい環境の 創造のための取組」など	<b>B</b> 学級担任の教科の特色 を生かした探究課題 (例)特別活動 テーマ 「キャリア」 探究課題 「実社会で働く人々の姿と自 己の将来」 学習事項 「働く人々の思い」 「〇〇になるためには」 ※中学1年生の発表	
12	<b>C【鯨っ子学習】</b> 児童の興味・関心に 基づく探究課題	<b>B</b> 学級担任の教科の特色 を生かした探究課題 (例)体育科、外国語活動 テーマ 「オリンピック・パラリンピック から世界を見よう」 学習事項 「オリンピック・パラリンピック の歴史」 「世界の国々のオリンピック・パ ラリンピックの賑わい」 「世界の国々の音楽」など 「世界の使用言語と日本語の違い」			
1					
2	※学習成果を2年生へ伝える				
3				卒業に向けて	

(各学年:総合的な学習の時間70時間)

3サイクル A 学年共通の探究課題 B 学級担任の教科の特色を生かした探究課題 C 鯨っ子学習

## 「鯨っ子学習」学年別課題ストック例

学年	教科	テーマ	児童の思い
3年生	国語	ローマ字	ローマ字は日本だけ使っているの。世界の言葉についてもっと知りたい。
	社会	佐賀の今と昔	今の佐賀市と昔の佐賀市の作りがちがうところ, 同じところをもっと調べたい。
	社会	学校給食	給食はどうやって学校全員分つくってるのかな。みんなに紹介したい。
	理科	絶滅危惧種	絶滅危惧種はどんな育ち方をするのかな。ほかの生き物とちがうのかな。
	理科	ダンゴムシ	だんご虫のことをなぜ昆虫というのかな。昆虫についてもっと知りたい。
4年生	国語	手紙の書き方	何で手紙の書き方は決まっているのかな。後付けで日付→自分の名前→相手の名前を書くのは不自然だ。いつから, そう決まったのか。外国もそうなのか。手紙についてまとめたい。
	国語	あまんきみこさんの作品	白いぼうしを読んで, あまんきみこさんの本をもっと読みたくなったよ。たくさん読んで, 友だちにその本の紹介をしたいな。表現の仕方も表とかにまとめられないかな。
	算数	折れ線グラフの活用	折れ線グラフと表を使って, 身の回りの事をまとめてみたいな。教科書のように, 附属小学校の保健室でケガをした人を表にまとめてみようかな。給食室の残菜を折れ線グラフにしてみたら社会科の資料になるかも。
	社会	環境問題と私たちにできること	ゴミを減らすために対策を考えることができたけど, 環境をよくするためには, 他にも対策が必要だと思うな。環境問題を調べて, その対策を考えてみたい。
	理科	有明海と玄界灘の魚	魚が好きだから, もっと魚について知りたいな。有明海や玄界灘に生息している魚はどんな魚だろう。違いもあるのかな。調べてみよう。
5年生	国語	物語の書き方	本を読むことが好きだし, 物語を授業で書くこともあるけど, なかなかうまく書けないな。物語を書くコツはあるのかな。調べて, 自分の物語にかかしていきたいな。
	算数	記号の意味と由来	算数では, 式で関係を表すことがよく合ってとても便利だね。式に使っている「+」や「-」という記号もたくさん習ってきたよ。でも, その由来は知らないな。由来が分かるともっとその意味も理解できそうだ。
	社会	お札の肖像画	お札を見ると, 歴史上の人物が描かれているね。この人物は, 何度も変わっているようだよ。どんな基準で人物は選ばれているのかな。新しく選ばれるのは, 誰だろう。調べて, 予想してみようかな。
	社会	教科書の無償化	教科書は, 国から頂いたものだ聞いたよ。どうしてお金を払って買わなくていいのかな。昔もそうだったのかな。そもそも教科書を買うお金は, どこが誰が払っているのだろう。知りたいな。
	理科	メダカの雌雄と生活	授業でメダカのオスとメスの体のつくりの違いを勉強したね。背びれの形の違いなどはどうして起こるのかな。オスとメスの体のつくりの違いは, どこからくるものなのだろう。

学年	教科	テーマ	児童の思い
6年生	国語	日本と中国の漢字の違い	漢字は、中国から日本に伝わってきたと授業で学んだけれど、今の日本と中国の漢字の意味などの違いはないのかな。日本独特の意味も生まれてきているのではないかな。
	社会	情報化社会	一人一台のタブレットを使えるようになったね。情報化社会の中でこれから生きていくために必要なことは何かな。個人情報の管理など、具体的にまとめてみんなに知らせたいな。
	社会	授業で習わない歴史上の偉人	歴史の授業で学ぶ人物以外にもたくさんの偉人はいるはずだよ。私たちが住む佐賀市にもたくさんの偉人がいたと思うな。みんなが知らない人の歴史を調べて紹介したいね。
	理科	太陽系の不思議	宇宙に興味があるよ。太陽系には、惑星があるけれど、数が変わったと聞いたことがあるよ。惑星ってどんな星のことを言うのか知りたいな。
	音楽	雅楽の演奏者	雅楽の演奏風景を見たけれど、男の人ばかりのようだったよ。演奏者に決まりってあるのかな。
	家庭	昔からあるお菓子	昔から人気のあるお菓子は、作り方が変わっているのかな。お店で見かけるパッケージの変化はありそうだけど、時代の変化に合わせているのかな。大きさが変わったお菓子もありそうだよ。

①「鯨っ子学習」における効果的な手立てと児童の姿（課題の設定）

	手立て	子どもの姿
学び方	『鯨っ子学習のすゝめ』（児童用）を提示する。総合的な学習の時間の他のサイクルにおいても、「鯨っ子学習のすゝめ」を基にした単元計画を提示し、繰り返し則った学習を行う。	「課題の設定」～「まとめ・表現」までの時間配分や取り組み例を掲示し、現在の進度を示すことで、参考にした活動に見通しをもったりして学習に取り組む。4月から繰り返すことで、「鯨っ子学習」では、スムーズに活動を行うことができた。
	上学年の「鯨っ子学習」のまとめ・表現の姿を知る機会を設けた。	上級生のパフォーマンスの姿(学習の成果物)を知ることによって具体的に自分が進めていく探究活動のイメージをもつことができた。
課題ストック	国語や算数、理科、社会の学習で習ったもので興味をもったことやもっと深めたいことを、テーマとしたり課題に設定したりするように伝えたり、長期休業などを使って、定期的に「課題ストック」のノートに記録する機会を設けたりした。	各教科の学びの中で興味・関心をもったことを忘れないように残すことで、課題をストックすることができ、いざテーマや課題を設定する際に選択肢が増え、自分の興味・関心のある事柄から課題を見だし、設定することができていた。更に、友達と共有することで、テーマや課題の幅を広げることができた。
課題の吟味・学習計画	NHK for school の「考えるカラス」を視聴させ、身近なところの疑問を探す下地を作る。また、関連して、本やインターネットで調べてまとめるだけでなく、仮説を立てて観察や実験を行いながら調べることの良さを説き、課題を吟味させた。	「考えるカラス」を視聴したことで、それまで本やインターネットで調べるだけだった課題から、観察や実験を通して調べようとする児童が格段に増えた。また、自分の課題に対し、仮説をもち、それが正しいかどうかを調べていこうという意識が高まった。
	「問い」についてや「問い」を立てる際に意識する点や注意点について伝えた。	「どのようなまとめ（結果）になるのか」を考えさせることで、帰納的な考え方をを用いて、「問い」を立てたり、見直したりすることができた。
	他教科の学習の中で課題として適当なものに触れたときは、例示した。	具体的にどのような課題を設定すればよいか考えるときの参考にすることができた。
	たくさんの課題の中から、インターネットで調べるだけで答えが分かるような課題にせず、実験やインタビュー等が必要な課題を友達からアドバイスをもらいながら選ぶように伝えた。	たくさんの課題の中から一つの課題を決定することで、それぞれの課題を比較しながら選択したり、学級活動で学んだ話し合いの仕方を生かしたりしながら意思決定をする姿が見られた。また、友達が考えた課題を知ることによってそのよさを見付け、新たな課題を見つける際に課題の深まりが見られた。
	課題を吟味する際、友達が集めた「課題ストック」も交流し、ピラミッドチャートで整理させた。下段から順に「自分や友達の課題」「興味がある課題」「実現可能な課題」とした。	自分の興味・関心のある事柄に関する課題で、かつ調べ学習に見通しをもてるものを設定できていた。そのため、調査計画を立てる際も、その方法を考えながら計画を立てることができた。
課題が 15 時間の探究活動に見合うものなのかを「問い」を立てる際に意識するように伝える。(1)意味や定義を問うもの(2)原因を問うもの(3)信憑性を問うもの(4)比較を行うもの(5)影響を問うもの(6)方法や関連性を問うものなど、問いには様々な種類があることを伝えてから問いを立てるようにした。	課題の中にある「問い」が、言葉の意味や定義を問うようなものであればすぐに答えが出てしまうので、原因や信ぴょう性、影響を問うような探究に耐えうるものかを意識し、自分なりの問いを立てることができる児童が増えた。	
仮説の設定	「仮説」を立てる際に、まずは、単なる予想や「答え（まとめ）」の予想とし、仮説を立てることから始め、少しずつ慣れるように伝えた。	仮説に対して自分なりの根拠をもつことで、最終的に答えが出た時に自分の仮説と比較して「同じなのか」「違う場合、どこが原因なのか」というようなことを意識させながら、考察（まとめ）に向かうことができた。
	「仮説」を立てる際に、ただの予想として終わるのではなく、自分の経験や知識をもとにしているという根拠も併せて述べるように伝えた。	仮説に対して自分なりの根拠をもつことで、最終的に答えが出た時に自分の仮説と比較して「同じなのか」「違うのか」、「違う場合、どこが原因なのか」というようなことをはっきりとさせながら、考察が行いやすくなっていた。

## ②「鯨っ子学習」における効果的な手立てと児童の姿（情報の収集）

	手立て	子どもの姿
情報の収集法	教師やモデルとなるようなプレゼンの資料を示し、説得力のあるプレゼンにする一つの方法として、引用・参考文献を示すようにした。	情報を収集する際に、確かな情報であることを示すために引用・参考文献を示している姿を参考していた。
	身の回りの情報源には何があるかを出し合った。（インターネット、本、雑誌、新聞、テレビなど）本の探し方について指導を行った。（国立国会図書館キッズページ）また、それぞれの情報源に対する利点と気を付けるべき点について考える時間を設定した。（保存の仕方、信憑性、情報モラル）	インターネットだけでなく、本やニュース、インタビューなど、情報収集の幅を広げることができた児童が増えた。
	一人一台端末の利用だけでなく、アンケートやインタビュー、本を使って調べることのよさを伝えたり、自分で考える時間を設けたりした。	複数の方法で自分の目的や意図に即した情報を収集する。アンケートを書く経験をすることで、アンケート用紙の分かりやすいつくり方に気付くことができた。
	自宅での実験、保護者との博物館訪問など、学校外での調査記録を残せるように、GIGA端末を持ち帰り、写真で保存させた。	課題解決に必要なことを、学校だけでなく自宅でも取り組もうとする姿勢が見られた。博物館で調査してくるなど、できることを探そうとする姿勢も見られた。
情報活用能力	インターネットや書物等を使って情報を収集する際は、出典を明らかにすることや、引用を行うことを指導した。	引用元や出典を明らかにして情報をまとめることができる。また、教科書やインターネットからの情報、他児童の考えを自由に収集したことで、資料の選択の幅を広げることができていた。また、インターネットを利用する際にも、1つだけではなく、複数のサイトを、「その情報は正しいのか」「自分の課題の解決に適しているのか」などを考えて閲覧していた。
	端末の操作方法や調べ方などのICT指導も行った。インターネット検索の方法について指導を行った。（AND検索、NOT検索、サイト内検索）	インターネットを使いこなす技能の差があるため、随時指導を行った結果、児童がいろいろな操作方を身に付けることができる。画面キャプチャーを行うことで、メモを書き出す必要がなく、調べ学習に割ける時間が大幅に増えた。また電話でのインタビューを音声録音することで、くり返し聞くことができていた。

### ③「鯨っ子学習」における効果的な手立てと児童の姿（整理・分析）

	手立て	子どもの姿（※□は教科の学び）
各教科の学び	<p>各教科の学習で学んだもので整理・分析に使えるものを紹介したり、どのような方法を用いると整理・分析が行いやすいかを互いに交流したりする時間を設けた。</p> <p>【各教科の学びの発揮を促す指導例】</p> <p>○国語科の『こまを楽しむ』で学習した事例のまとまりや、『すがたをかえる大豆』で学習した事例の順序性、『ありの行列』で学習した観察・実験文の基本構造を思い出させ、それらを意識して文章構成を行わせた。</p> <p>○算数科で「表とグラフ」を学習後、アンケートで集めた数値を表や棒グラフでまとめることを促した。</p>	<p><b>国語科</b> 「長い文章を要約すること」「資料から分かることを文章にすること」 「事例の順序性」「文章の構造」</p>
		<p><b>算数科</b> 「表やグラフ(折れ線グラフや円グラフや棒グラフ)に表すこと」</p>
		<p><b>社会科</b> 「イメージマップを作ること」「年表や地図に表すこと」「意見文としてかくこと」</p>
		<p><b>理科</b> 「問題から予想を立て、実験(調査)すること」 「実験の結果をまとめること」「元素や法則などの知識を使うこと」</p>
		<p><b>道徳科</b> 「情報モラルに留意して調べること」</p>
思考ツール	<p>「思考スキル」で使っている方法をいつでも、どれでも使えるようにスライドの見本を用意し、提示(配布)した。</p>	<p>ほとんどの児童は、集めた情報に対して何らかの思考ツール等を適切に活用して整理していた。</p>
	<p>普段の思考スキルで用いているツールや鯨っ子学習のすすめについている思考ツールを、どのようなときに用いるものなのか、用いることでどのような利点があるのかということを改めて考えることで、必要なものを自ら活用できるようにした。</p>	<p>「比較する」、「関連付ける」を活用している児童が見られた。しかし、全員が活用できているという訳ではなかった。※適切な活用の仕方を指導することや、有用性を感じることができるようになることが必要であると感じた。</p>
例示	<p>教師が作成した、パワーポイントのスライド例を配布した。</p>	<p>自分が何をどこまで分かっているのかをはっきりさせながら、モデルを活用し、順序を考えながら整理していた。</p>
仮説の考察	<p>情報整理の結果、得られたものを基に、自分に必要なデータかを考えたり、考察したりするようにした</p>	<p>教師の助言や他者からの意見を聞くことで、調べて終わりではなく、自分の課題や仮説に立ち返ることで、「より良いまとめにしよう」「分かりやすいプレゼンにしよう」という意欲が生まれた。</p>
	<p>整理・分析した結果が、最初に立てた「仮説」「答え」と比べてどうなっているのか考えるよう伝えた。</p>	<p>「仮説」「答え」と比べることで、学習の流れについて改めて考えることができた。随時確認させることで、調べる内容がより深く、妥当性のあるものになった。</p>
	<p>毎授業の終末に、全てのグループの成果物を黒板に掲示し、他グループの整理・分析の仕方を参考にできるようにした。</p>	<p>国語科や図画工作科の資質・能力を総合的に発揮し、見出しや資料の使い方等、読み手を引き付ける工夫について他グループのよさに目を向けることができていた。また、その工夫を自分たちの活動へ生かしていた。</p>
	<p>仮説が正しかったかを確認し、正しくなかった場合は新たに仮説を立て、繰り返し実験、観察、調べ学習を行う学習過程を称賛し、クラスに広めた。</p>	<p>結局、ほとんどの児童が仮説の時点で正当に近付いていた。低位の児童ほどずれがあったが、自力で繰り返すことは難しく、教師の補助が必要だった。そういう意味では、この手立てはさほど効果を上げていない。</p>
	<p>調べてきたことを基に、分かったことを友達に話し、納得できるかを確認する時間を設けた。その際、分かった、分からないに関わらず質問するように促し、本人の理解を深めさせた。</p>	<p>調べ学習が早く終わった児童から交流に入らせた。せっかちな児童が多かったため、質問に答えられないことで自分の理解の低さに気付く、再度調べ直す姿が見られた。</p>



④「鯨っ子学習」における効果的な手立てと児童の姿（まとめ・表現）

	手立て	子どもの姿（※□は教科の学び）
目的意識	「学習の成果をお家の人や異学年（上級生，下級生）に伝える」を設定して探究活動を進めた。	「誰に伝えるのか」をはっきりさせることで相手や目的を意識して，分かりやすいプレゼンを試行錯誤しながら考え，まとめていた。
	クラスでお互いに学びを披露する場を設定して探究活動を進めた。	
まとめ方	まとめの組み立て方について学習し（帰納法，演繹法），自分の主観ではなく客観的に書くことに気を付けるよう指導した。また，事実と感想，意見とを区別して書くよう指導した。	分けて書くことで自分の言いたいことが伝わりやすいまとめとなったと感じている児童が多かった。
	文章校正のポイントを伝え，自分の書いた文章を推敲するようにした。	これまでに学習してきたこと（問い，仮説，引用，事実と考察）を意識して友達のまとめに意見を出す児童が多かった。
	まとめ・表現の方法は，様々あることを伝えた。関係者に手紙を出すなどの表現をしている児童を紹介した。	パワーポイントを使ってまとめる児童が多かったが，それ以外の表現方法について友達の取組から学ぶことができた。
伝え方	分かりやすい表現の仕方を考え，互いに伝え合いアドバイスをし合う時間を設けた。	<b>国語</b> 「話し方(声の大きさ，速さなど)」「資料のある良さ」 <b>外国語活動</b> 「相手の反応を確かめながらコミュニケーションを行うこと」「伝えたいことについて，ジェスチャーをしたり該当部分を指差したりして提示すること」
	分かりやすい表現の仕方や，プレゼンの見せ方について考え，互いに伝え合いアドバイスをし合う時間を設けた。	1枚のスライドにどれくらいの情報を入れると見やすくなるかを友達に見てもらいながら考えるなど，より分かりやすくなるプレゼンの仕方になるように工夫していた。
家庭	授業参観や家庭で，家族に向けて「鯨っ子学習」の成果を伝える機会をつくり，アンケートなどで保護者の声を聴くようにした。	家族に成果物を伝える機会をもったことで，保護者からも反応をもらい，新しい知識を得たり，新しくできるようになったりした自分の変容を感じたり，新たな課題（改善点）を見いだしたり，満足感を得たりしていた。
振り返り	下学年への発表を終え，実際にやってみて難しかったことや，次に調べたいことについてふりかえる時間を設けた。	設定した課題が難しかったと感じた児童も数名おり，もっと身近な生活から生じた疑問を課題としたと感じていた。
	課題の設定から表現まで，段階ごとに振り返りを記述させていった。	探究活動を振り返り，15時間の活動過程を非常にポジティブに捉えていた。来年度以降の総合的な学習の時間への意欲も高い。
新たな課題	「鯨っ子学習」を終えてさらに調べていきたいことを「課題ストック」のノートに記録する時間を設けた。	はじめは課題ストックも限られた教科に偏っていたが，徐々に広がりが見られるようになった。新たな課題となり，「鯨っ子学習」の探究サイクルを意識するようになった。来年度以降の「鯨っ子学習」への見通しをもち，意欲を高めていた。